

第5回小渋ダム土砂バイパスモニタリング委員会

議事要旨

日時：平成30年3月23日（金） 13:00～15:00

場所：名古屋ダイヤビルディング 1号館 161会議室

1. 開会

2. 開会あいさつ

(中部地方整備局 天竜川ダム統合管理事務所長)

3. 委員長挨拶

4. 議事

(1) H29年度試験運用及び各部会の報告について

事務局より H29 試験運用及び各部会の報告について説明し、主に以下の意見を頂いた。

- ・今年度は貯水位が回復していた時期に洪水が生じたため、バイパスが運用しやすかったと考えられる。今後、さまざまな洪水波形や利水も考慮した運用によるバイパス効率、事業効果の検討が必要である。
- ・バイパス効率を考えるには、第三貯砂堰から分派堰の間の河道に堆砂した土砂をどのようにバイパスさせるかが重要である。第三貯砂堰から分派堰の間の河床状態により、土砂の流下状況が異なることから、河床状態の時間変化について把握することが望ましい。

(2) H30年度モニタリング計画及び試験運用計画について

事務局より H30 年度のモニタリング計画及び試験運用計画について説明し、主に以下の意見を頂いた。

- ・分派堰上流や第三貯砂堰上流のカメラ撮影は、河床状態の把握に有効であるので、タイムラプスカメラ等でもよいので夜間でも撮影できるもので行うのが望ましい。
- ・バイパス吐口の採水管は貴重なデータになるため、補修して観測を続けた方がよい。
- ・バイパス流量を把握するため、トンネル内カメラは撮影範囲を上流に広げて、流況の乱れが及ばない地点で撮影することが望ましい。
- ・分派堰を越流した土砂についても、濁度から通過土砂量を把握できないか検討すること。

5. 閉会